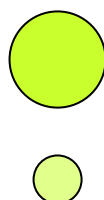


編集室より

先に、長野県岡谷、駒ヶ根の産業文化施設を視察した。明治から大正にかけて生糸はわが国輸出の最重要商品であり、それ以前の慶応元年には全輸出の79%を占めていた。特に岡谷はその四分の1を占める隆盛を謳歌した。そして現在、岡谷には約800の工場（4名以上）があるが、「繊維は2社あるかないか」という。駒ヶ根も過去1万8000の養蚕農家が共同で生糸紡績会社「龍水社」を結成していたが、平成7年には参加者70名になり、解散した。過去の隆盛を今に伝えるため、岡谷は「岡谷蚕糸博物館」、駒ヶ根は「シルクミュージアム」を建設して、偉業を現在に伝えている。それが「ふれあい農園」などの付帯設備を含めて結構、観光収入につながっている。駒ヶ根のシルクミュージアムには、今年、上半期、名鉄観光だけで8000名が訪れているという。「産業文化」と「観光産業」を見事に融合しているわけだ。さて尾州産地では・・・。（MY）



テキスタイル&ファッション

編集・発行	財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター
監修	愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センター 愛知県繊維振興協会
協力	愛知県産業技術研究所三河繊維技術センター